

5 災害に強いまちづくり計画



施策 7-2-①

多重防御のまちづくり

地震・津波

【取組の概要】

南海トラフ巨大地震のような大規模災害に対する「災害に強いまちづくり」では、従来の1つの防御方法だけでは甚大な被害を食い止めることはできないため、幾重にも防御方法を有する「多重防御」の考え方への転換が必要となります。

例えば、防波堤・防潮堤による「一線防御」に加え、嵩上げ道路や高台の公園緑地整備による「二線堤」確保による「多重防御」、また、離岸堤整備による津波エネルギーの削減、これまでのハード整備主体から、ソフト施策の総動員による「多重防御」等があります。本ガイドラインでは、いくつもの有効なソフト施策を記載していますので、ここでは、「二線堤」による「多重防御」に着目します。

本来「二線堤」とは、河川堤防背後の堤内地に築造される堤防のことをいい、控え堤、二番堤ともいわれ、万一、本堤が破堤した場合に、洪水氾濫の拡大を防ぎ被害を最小限にとどめる役割を果たすものです。大規模災害に対する「二線堤」は、海岸部から離れた場所に線状に延びる嵩上げ道路や高台の公園緑地で整備しようとするものです。

東日本大震災では、一線堤を超えた津波の流れを二線堤（盛土された道路）が食い止めた事例として、仙台東部道路が知られています。



◇仙台東部道路より海側（東側）



◇仙台東部道路より陸側（西側）

防潮堤として機能した、仙台東部道路（参照：四国地震防災基本戦略）

【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

- ・東日本大震災で被災した地域の復興計画では、「二線堤」を整備する施策が検討され、その実現が図られています。

5 災害に強いまちづくり計画

- ・二線堤は、嵩上げされた道路や公園緑地整備で構築しますので、都市計画マスタープラン等で検討しておく必要があります。
- ・多重防御のまちづくりが進められることで、地域住民の危機意識が薄まり、避難行動の遅れ等につながるが生じないように、施設等の完成後における避難訓練の実施や啓発活動に努めることが重要です。

【事例】

○宮城県岩沼市の多重防御

・千年希望の丘をはじめとした多重防御

- ・宮城県岩沼市では、7.2mの防潮堤、貞山運河（堤防）の復旧、市道の嵩上げ、希望の丘、希望の丘の園路で、津波に対して五重の防御の整備を進めています。
- ・千年希望の丘は、「いのちを守る」「大震災を伝える」「自然と共生する」「みんなでつくる」ものとして、整備が進められています。
- ・千年希望の丘は、災害廃棄物を活用して築造しており、東日本大震災を後世に伝承する役割も担っています。
- ・また、千年希望の丘で開催された植樹祭には、多くのボランティアが集まり、復興のシンボルとなっています。

